

No.64 contents

- 1 第98回二科展開催 二科98回展によせて
- 2 〈絵画〉総評
- 3 〈絵画〉会員になって一制作の視点
- 4 〈絵画〉受賞作品一制作の視点
- 7 受賞者一覧・百周年委員会より・二科巡回展日程
- 8 〈彫刻〉総評・会員になって・受賞者一制作の視点
- 11 ローマ賞 研修報告
- 12 event memo(セレモニー・ギャラリートーク・二科展鑑賞会・TAROを踊る!・金曜ナイトミュージアム)
- 14 被災地児童支援・チャリティー活動報告
- 15 デザイン部・写真部 帝国ホテル二科サロン・春季展日程
- 16 表紙について・茨城支部が快挙・トピックス・事務局だより・編集後記



2015年 二科展は
100回展
を迎えます

秋季

発行人:田中 良 発行:公益社団法人 二科会
http://www.nika.or.jp/ TEL:03-3354-6646
E-mail:nika@nika.or.jp



四〇周年会員群像 織田廣喜(第40回二科展図録より)



作家名対照拡大図は16頁へ

第98回二科展開催

今展は百周年記念展への繋がりとして、岡本太郎作品パネルを彫刻室に展示して好評を得た。吉野毅委員長を中心に、委員の活動が、より鮮明になってきた。最後に明朗迅速適切な事務処理の事務局長、スタッフに感謝。

又今回から東京都知事賞が加えられ、会員の励みになった。作品の傾向として、類似的作品が影を潜め、二科展本来の姿である、個性豊かな明日への期待作品が多くなった。尚若手出品者の中から、佳作が増えたことも心強い。一層の普及を願うチャリティー作品展も、絵画、彫刻、デザイン、写真各部のご協力で、益々盛んになり、心から御礼申し上げる。

今年の二科展は、記録的猛暑の中、また台風の影響も受け、入場者が昨年よりやや減少したが、盛況裡に終了できたことを喜ぶたい。

会員諸氏の意欲が、各部門で高揚し、準備から展示、ギャラリートーク等の催事も賑わい、その努力が高く評価された。

二科98回展に

よせて

田中 良



絵画部会員 審査室にて

総評の場を借りて

終盤になって、台風との出会いがあったものの、第98回二科展は、連日の賑わいを見せ滞りなく会期を終えた。改めて会場で作品を見ると、制作意図や表現技術がよく見えてきた。さすが評価された作品は、描き込んだ強さを持っている。

今回の賞で印象的だったのは、西健吉氏の「浜の娘」が内閣総理大臣賞になったこと。今日の多様な表現のなかで、対象を真正面から捉えた具象作品が受賞、当然作品がいいからだろうが、何かほっとさせられた。また、パリ賞と損保ジャパン美術財団賞には、新鮮な絵画空間を創った、32歳と31歳の若手が輝き、今後の明るい材料。U35奨励室の充実も、若手育成の成果を窺わせた。

さて、ここからは、審査について私見を述べたい。いろいろな事情が罷り通った時代を経て、やっと獲得した公平性と透明性。それが会員の挙手による決定である。入落から会員推奨までを多数決で決めてい

中原史雄



る現状。しかし、すべての選び方でいいのだろうか。

ともすれば、勢いのある作品が評価されたり、難のない作品を選んでしまうように思える。芸術表現には、「整理より混沌」という価値観も大切なはず。限られたスケジュールで、難しさはあるにしても、目立たないけど魅力のある作品、妙だ起こす、もくもくと積み重ねる仕事も認める。そんな観点も必要だと思うのだ。そろそろ多数決でなければというトラウマから抜け出さねば。

明日の二科展は、特定の人だけでなく、出品者全てが、表現を研く以外にない。ご意見を事務所へ。





建群(B) 田村 一男



イマジネーション プリンター(2版) 谷口 貞久



食堂風景2 高木 和子



道しるべ2013-(3) 須田 美紀子



陽矢(国道20号線) 矢野 兼三



ハス(蓮)1 藤谷 進



つかの間の休息 辻 富佐美



五月 茶谷 弥宏

十年前のクロッキー帳を開けてみました。伸び伸びと描いているなあ、と気付きました。力を抜いて、観念の世界からも解放されて、昨年と同じキッチンと人物の組み合わせに挑戦してみました。終りのない模索の中で、少しでも自分の絵が描けたかもしれません。

第75回 特選／第77回 会友推挙
第84回 パリ賞／第91回 会友賞
第98回 会員推挙



高木 和子

私の地塗りは、キャンバスとの格闘跡。自分のイメージに近づくまで格闘を続けます。仕上げは全体をグレー調に構成するため、どうしても弱くなりがちです。今回その弱さを補うため、画面にスピード感を出し工夫しました。

第89回 特選／第92回 会友推挙
第96回 会友賞／第98回 会員推挙



須田 美紀子

会員になって
—制作の視点—

落ちついた色調構図の空間から旅情や生活の息づかいを感じ言葉をこえるリズムが流れてくるようにとの思いを表現し、心あたたまる作品づくりに苦勞しましたが、今後も人の心に伝わるような「内」なる声を大事にしてキャンバスに表現できたらと思います。

第79回 特選／第92回 会友推挙
第95回 会友賞／第98回 会員推挙



田村 一男

15年程前から『版画の技法自体をタブローとして発表する』という試みで制作を続けています。画題の「イマジネーション プリンター(2版)」とは、「鑑賞者自らがプリンターとなり多版刷りをイメージしていただく」という意味でつけています。

第82回 特選／第85回 会友推挙
第88回 会友賞／第98回 会員推挙



谷口 貞久

何気ない日常などはない身の廻りに起きる喜怒哀楽日常の中にどっぶり潜み私を脅かすつかの間休息をもたらず愛が訪れ明日への扉を開けてくれる

第74回 特選／第78回 二科賞
第81回 会友推挙／第89回 会友賞
第98回 会員推挙



辻 富佐美

庭先の様子をどう画面に表現していくか。今まで主に制作してきた公園とは違い家や木立など多くの構成要素が存在した。人物は当初3人の予定であったが、中央にもう一人入れることによって統一感の効果がより深まるように構成を工夫した。

第92回 特選／第94回 会友推挙
第95回 二科賞／第98回 会員推挙



茶谷 弥宏

山々に囲まれる環境で色彩に驚愕、翻弄され、色の変化に敏感になったようです。刻々と変化する光 色彩の移ろい、時の経過を感じてもらえるような絵が描けたらとの思いで、悪戦苦闘。「陽矢」では落日前の光りの矢も循環する日々、経時変化の一コマを演出する。

第78回 特選／第84回 会友推挙
第93回 会友賞／第98回 会員推挙



矢野 兼三

二科展に出品してから36年になります。が長いと感じたことは、一度もありません。これからも、今までと変わらず、時代感覚を吸収しながら、自己の心に咲く花を大切に、描いていきたい、と思っています。

第83回 特選／第89回 会友推挙
第92回 会友賞／第98回 会員推挙



藤谷 進

受賞作品——制作の視点



東京都知事賞 画室の語らい F200
濱田 進



内閣総理大臣賞 浜の娘 F150
西 健吉



会員賞 遠い遠い北の街カーナルクス P100 木村 清敏



会員賞 INNER SPACE 130×320 金澤 英亮



会員賞 アドリア海の風 162×261 米田 整弘



会員賞 いつもの時間2013-05 F130 古保木 雄一

浜の娘 西 健吉

浜と少女をテーマに描き続けていますが、今回、修理のために引き揚げられ船尾にテントを吊るした老漁船を見つけた瞬間に縦型の構成イメージが沸いてきました。広い面積の中に船を置き、人物のポーズと配置による奥行き感を意識しながら浜の情感を描きました。

INNER SPACE 金澤 英亮

作品のテーマは、内的宇宙です。自分の内面にある、面白い物だけ描くということなので、現実には見えない物を描いています。

遠い遠い北の街カーナルクス 木村 清敏

ノルウェーの寒村を描いて久しい。今回は構図は直線でシャープに、色彩は補色を使ってみました。

画室の語らい 濱田 進

巴里の屋根裏部屋、ホテルマンサール五〇八号室。この部屋はまるで私の画室に居る様な気持ちにさせる場所でした。目を閉じると、時間と空間と距離を超越した映像が脳裏に広がり、その一コマをキャンバスに描いたのが今回の作品です。

いつもの時間2013-05 古保木 雄一

同じ色調の構成のシンブルな美しさを考えてみました。描きすぎたところ、描かなすぎたところの調和がうまくいった気がします。

アドリア海の風 米田 整弘

クロアチアの街並み、空、海に触れ、その空気、匂い、風を表現したいと思った。造形的な強さや動きにも、チャレンジしてみた。

受賞作品 — 制作の視点



上野の森美術館奨励賞 色はにほへどⅡ F100
村山 成夫



パリ賞 Summer Holiday #2 F100
篠原 涼子



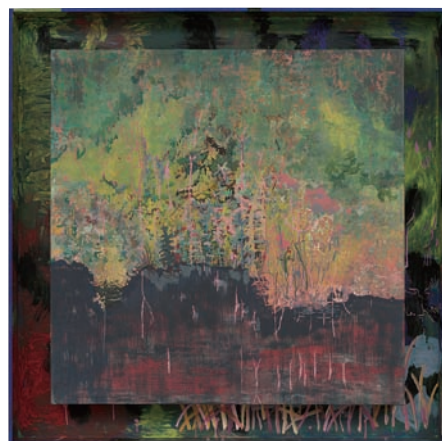
二科賞 庄屋の片隅 F100
高見 愛



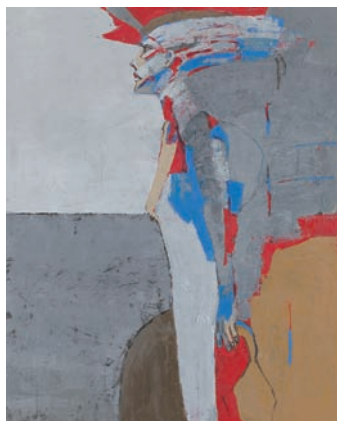
新人奨励賞 dialogue F100
宮田 春奈



新人奨励賞 赤い杭 F100
高木 陽



損保ジャパン美術財団賞 shape of green 3 S80
山岡 明日香



新人奨励賞 クラウドイ F100
吉田 紗知

色はにほへどⅡ
村山 成夫
落ちてゆく花びら、そして重なり合う時間。それらを見る蓮は、あたかも自らの遠い記憶とこれらの事を見つめている様に想えました。

Summer Holiday #2
篠原 涼子
身近な風景をテーマにして見たことのない風景画を描きたいと思いました。彩度を下げずに、明るい画面になるように心がけました。

庄屋の片隅 高見 愛
旅をして出逢ったその古い物の魂と、私の魂がぶつかった時の感動、ドキドキ感。その一瞬を目に焼き付け、描き残していききたい。

shape of green 3 山岡 明日香
私という個人が見て感じ、描いた風景と、絵を見る人の持つ風景の記憶とが、どこか少しだけ共感することができればと思っています。

赤い杭 高木 陽
昼間は緑の美しい落ち着いた公園だが池の深い所は4m位あり大人でも溺れ得る。そのような人を拒む境界線である杭を赤で表現した。

dialogue 宮田 春奈
精神の奥深くを森に見立てました。そこを歩いていくことが、自分自身もしくは周囲との深層での対話であるように思い、描きました。

クラウドイ 吉田 紗知
平面的表現をした部分とマチエールを用いて表現した部分をバランスを取りながら配置し、双方を引き立て合う画面作りを心掛けました。

受賞作品——会友賞



人形3 F100
片岡 佐智子



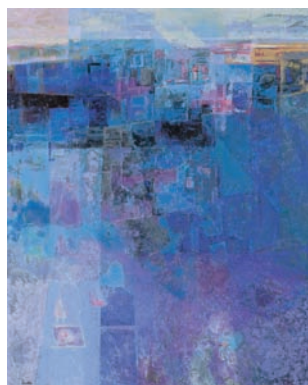
調C F100
臼田 聖子



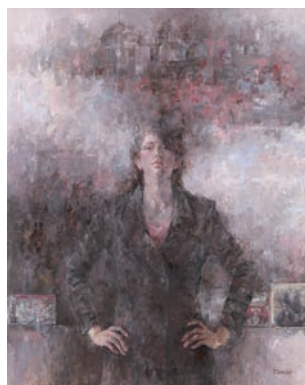
sentiment F100
今泉 あかね



人の居る空間Ⅲ F100
片岡 素子



午後の街Ⅰ F100
古川 正



回想する風景 F100
添野 忠



DANCE・コンテンポラリーⅠ F100
佐野 宜子



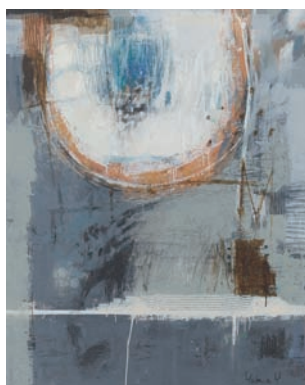
広場の人達(5) F100
所 智恵子



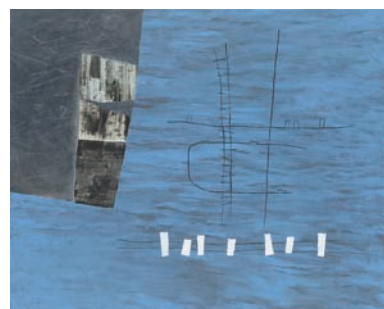
二元論Ⅲ F100
竹淵 直美



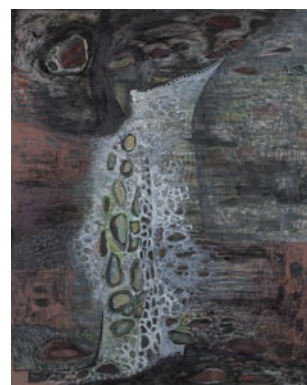
作業船① F100
高山 章亮



夢のちから F100
吉金 幸枝



遠い風景Ⅲ F100
吉田 多鶴恵



繕って(1) F100
安本 弘恵

第98回二科展受賞者一覧

(絵画部)

内閣総理大臣賞 西 健吉(鹿児島)	古川 正(新潟)	会員推挙 須田 美紀子(福島)
東京都知事賞 濱田 進(京都)	吉田 幸枝(東京)	高木 和子(千葉)
二科賞 高見 愛(熊本)	吉田 多鶴恵(京都)	谷口 貞久(奈良)
パリ賞 篠原 涼子(滋賀)	特選 上石 直美(福島)	田村 一男(岐阜)
損保ジャパン美術財団賞 山岡 明日香(滋賀)	浅利 美伎子(山梨)	茶谷 弥宏(石川)
上野の森美術館奨励賞 村山 成夫(新潟)	奥村 勝子(滋賀)	辻 富佐美(神奈川)
会員賞 金澤 英亮(東京)	川崎 美津子(熊本)	矢野 兼三(山梨)
木村 清敏(福岡)	川人 和行(東京)	秋元 克文(千葉)
古保木 雄一(滋賀)	岸 ユキ(富山)	朝倉 由美(静岡)
米田 整弘(大阪)	鈴木 文明(東京)	宇都木 裕子(滋賀)
会友賞 今泉 あかね(神奈川)	たかぎちようこ(大阪)	大洞 定治(滋賀)
白田 聖子(愛知)	立石 洋子(福岡)	小川 エリ(東京)
片岡 佐智子(千葉)	田中正子(京都)	金子 久子(愛知)
片岡 素子(東京)	徳弘 あずさ(高知)	蒲田 宏(神奈川)
佐野 宜子(神奈川)	久田 千恵子(愛知)	川畑 清美(鹿児島)
添野 忠(栃木)	三木 照男(埼玉)	木村 ユリ(神奈川)
高山 章亮(東京)	三沢 栄(長野)	合田 紘露(寛子)(愛知)
竹淵 直美(埼玉)	安坂 伸司(東京)	さとう のりこ(神奈川)
所 智恵子(岐阜)	山村 出洋(神奈川)	篠原 涼子(滋賀)
	渡邊 仁美(神奈川)	高橋 徳子(栃木)
	新人奨励賞 吉田 紗知(千葉)	竹川 洋子(神奈川)
		塚本 和美(福岡)
		鶴田 英輝(福岡)
		中村 ふく子(愛知)
		前田 友幸(鹿児島)
		三宅 敦子(岐阜)
		牟田 志津子(福岡)
		山口 博司(長崎)
		吉井 愛大(大阪)
		吉田 豊彦(長崎)

(彫刻部)

文部科学大臣賞 藤巻 秀正(新潟)	二科賞 森田 博之(埼玉)	ローマ賞 西村 貞雄(沖縄)
彫刻の森美術館奨励賞 瀬戸 志保(山形)	会員賞 大村 富彦(静岡)	会友賞 川本 拓(神奈川)
特選 吉田 朋世(奈良)	新人奨励賞 大坪 義武(静岡)	会友推挙 本多 紀朗(大阪)
仲子 亜未(静岡)	会員推挙 中村 淳子(岐阜)	岩崎 花菜子(東京)
こじま マオ(神奈川)		
富樫 和也(神奈川)		

百周年委員会より

百年史についてお願い

「二科の百年と現在」をテーマに、DVDと冊子を組にした百年史を計画しています。先日、支部長会議の席上でもサンプルをお見せして、あらためてご協力をお願いしたところです。係としましては、着々と歩を進めておりますが、会員、会友の皆さんにお願いした名簿確認用のはがきの回答返信が充分でないのが現状です。二科百年の名簿ですので、充実を図りたいものです。未提出の方、お忘れの方は、是非早速に記入投函されますよう、重ねてお願い申し上げます。DVD掲載写真とは告知の通り98回展図録写真を基本とします。差し替えご希望の方は、原稿を係あてお送りください。またその際、返却を希望される場合は、返却先宛名を記入の上、切手を貼った封筒を同封ください。返却用封筒の無い場合は、使用後処分可と解釈させて頂きます。ご面倒をおかけしますが皆様のご協力のもとより良いものと思っております。

ご不明、ご質問等につきましては、担当の福島迄。

電話029-247-3400

第98回

二科巡回展



◆大阪展

平成25年10月30日
～11月10日
大阪市立美術館

◆金沢展

平成25年11月15日～24日
金沢21世紀美術館

◆京都展

平成25年11月28日
～12月8日
京都市美術館

◆名古屋展

平成25年12月18日～23日
愛知県美術館ギャラリー

◆広島展

平成26年1月7日～12日
広島県立美術館

◆鹿児島展

平成26年3月5日～16日
鹿児島県歴史資料センター
黎明館

◆福岡展

平成26年3月25日～30日
福岡市美術館

搬入から審査、展示へ

島田紘一呂

例年になく猛暑も毎年続くと例年なのだろう、そんな中で制作された98回展の作品が、8月22日、23日と搬入されました。

今年は会員、会友の不出品者が多く、又一般出品者も例年より少ない状況の中、24日の入落審査、25日の受賞審査が行われました。

入選、落選が同数で再度審査してもなかなか決まらない作品もあり、新しいというか若い出品者のとらえ方にも人によって違う面が出て、議論も熱を帯びまし

た。久しく出なかった二科賞が、会友、一般出品の決選で決まり、今年の会場の見せ場の一つになりました。

会場構成は受賞者、ギャラリートーク作家を全体に分散させ、偏りが有る部屋が出来ることが防いでいます。100回展に向けて今年は岡本太郎特別展示を、来年は東郷青児特別展示を行っていきますが、彫刻部スペースを100㎡使用するの、規格外作品をなるべく辞退してもらった事も有ってか、大型の作品が例



彫刻部 会場風景

年比べて、少なかったように思いました。見易い、優しい会場には成りましたが、インパクトが少し弱く感じられました。会場を野外へと進むとロビーに小品が十数点展示してあります。巡回展用の会員の作品、あるいは首などの作品ですが、広い会場に置くよりも鑑賞

しやすく、良いスペースになりました。野外展示場は、隣り同士が影響し合わないノビノビとした空間で、石材以外にも、木材、金属が上手く収まっています。ギャラリートークは例年2組でスタートしますが、今回は会場が狭いのでは、

と言う事で1組だけの企画に成りましたが、2組のトークが可能だったように思いました。99回展では、今回学んだ事を頭に入れた作品制作、展示構成をお願いしております。



彫刻部会員集合写真

会員になって

制作の視点



中村 淳子

いのちに寄り添えば自分の生も深まる。自己を内観し、どの様に木と対峙し関わるのか。課題は多い。しかし、これからも変わる事なく内なる真実に向かつて静思し、命輝く作品を作り続けてゆきたい。

受賞者

制作の視点

森の響き
藤巻 秀正

豪雪地の春の芽吹きは燃え盛るエネルギーを感じさせる。近年、原発汚染、自然の乱獲、乱造で大地は修羅場と化している。この人間のエゴの生きざまを森は見つめている。森は知っている。森は訴えている。この森の思いを作品と対話の中で見出しただけならと思つて制作しました。

水ぬるむ
西村 貞雄

水面に立っている女性像で、左足に重心を掛け、右足を一歩進めようとしているポーズである。「水ぬるむ」としたのは、冷えきった状態から抜け出して行く姿を表わした。水面が波打っているのは、いろいろな社会情勢があるという状況を示し、その中から未来に向かつて積極的に抜け出していく明るい兆しへと進む姿とした。

くしとはさみ
森田 博之

私の母は美容師でしたので、物心ついた時から髪を切ってもらっていました。あの頃(幼児期)の情景を形にしてみました。私の記憶では道具を動かす「手」があり「おっぱい」があり「顔」がある。その程度ですが、やはりその奥には「魂」が宿っているのかもしれない。

受賞作品 ― 制作の視点



二科賞 くしとはさみ 森田 博之



ローマ賞 水ぬるむ 西村 貞雄



文部科学大臣賞 森の響き 藤巻 秀正



会友賞 産声 林 一平



会員賞 眠る人 大村 富彦



会友賞 生命をわたる船 川本 拓

眠る人

大村富彦

装飾的な表現を抑え、この本質を見詰めるも具現化することに抵抗があり制作は進まず、迷いの中に入ってしまった。「この人はいつ目覚めるのか」と尋ねられ、形から受ける心の不思議を新たにした。

生命をわたる船 川本 拓

制作をしながら生きるということ、生命とは何かと考えていた。死と隣り合わせとも言えるが、生きている今を大切にしたい。

作品が船に見えた。

生きることを、生命をわたる船のようだと感じた。

産声

林 一平

ものつくりにとって大切なものとは何か？ 今回の作品制作をするにあたって色々と考えさせられる事がありました。出産と葬儀。生まれてくるものの喜びと、去り逝くものの尊さを行きかう事ができればという思いで制作しました。

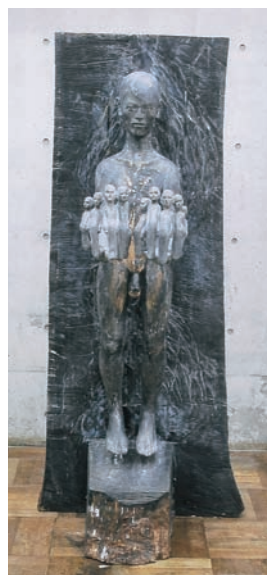
受賞作品 ― 制作の視点



特選 三島梅花藻 吉田 朋世

特選 マフラーをまいたヒト
仲子 亜未彫刻の森美術館奨励賞 焰(ほむら)
瀬戸 志保

新人奨励賞 Head or small Cosmos 大坪 義武



特選 十三回想 富樫 和也



特選 工業化文明の行方 こじま マオ

焰(ほむら)

瀬戸 志保

自分の内面に燃える炎を、四角い石の内側に彫り込みました。置かれる環境、空間に支配されにくい形である四角い形状により、見る側の空間との直接的共有を避け、見て感じる立体を意識しました。

工業化文明の行方

こじま マオ

大量生産、大量消費、コンピュータ化による利便性の追求とスピードアップ、人類は、いったい何を求めているのでしょうか？ これらの現象を物語性のある作品に当てはめました。

マフラーをまいたヒト

仲子 亜未

言葉(タイトル)あそびについて考えていました。作品を見て何を感じ取ってもらえるでしょうか。強いメッセージ性がある様にも見えますが、タイトルを見て、ふふふとなって頂けたらしめたものです。

十三回想

富樫 和也

不可思議な存在を求め形のないものを形にし、意味はなくとも意味があるよう、私は考えています。今作品はことばと自信のあり様です。

Head or small Cosmos

大坪 義武

三島梅花藻 吉田 朋世
より内面的、また、対象から受けたイメージや質感を表現したいと思って制作しました。

地面に「ごろん」と置ける単純形態を、柵のもつテクスチャーを生かして作る。断面の不整合や木の多様な表情を組み合わせ、単純な形の中に切線と凹凸面の構成による力強さや伸びやかさが出るように努力した。

ローマ賞 研修報告

嶋崎達哉

(第96回展 ローマ賞)

フランクフルト市内から一時間強、ICEはヴェルツブルクに到着した。今回この歴史の古い町を訪れた目的は、ティルマン・リーメンシュナイダーの作品を研究する為である。

まずは、小高い丘から街を見下ろすように建つマイン・フランクエン博物館へ。リーメンシュナイダー展示室へ、自然に足が速まる。

展示室では、七十体ほどの彫刻が訪れる人を迎えてくれる。菩提樹の木から浮き出たような見事な彫刻は、厳かな静けさを保ちながらも圧倒的な存在感をはなっている。肩にかかる豊かな巻き毛、体の動きに沿って繊細に揺れる服の襞、手の甲に浮かび上がる血管のリアルさなどをもって、我々の目を釘付けにする。高度な技術力から成る力強さと絶妙な構成力に思わず息をのむ。

この時代の木彫作品は着色する事が多かった。信仰



の対象であるため、人の目を惹くような豪華な彩色が好まれたのである。だが彼は本地のみで制作する事を望んでいたようだ。作家のプライドや自信を見せつけられたような気がする。彫刻を学び始めた頃のような純粹な気持ちでどれほどの時間見入っていたか。充実した、いい意味での疲労感を感じた一日だった。帰途の電車で揺られ作品の余韻に浸りながらドイツの町を眺めていると、中世

の人々の祈りが一人の彫刻家によって時間や場所を超えて現代日本に生きる私に伝わったことが奇跡のように感じられる。



農民戦争の折、敗者側の立場にいたリーメンシュナイダーは、報復として拷問を受け右腕を折られたともいわれている。彫刻家として、恵まれた晩年を迎えたとはいえない彼の彫刻は、五百年の年月を経ても色褪せることなく輝き続けている。

エジプト紀行

上田 快

(第97回展 ローマ賞)

ローマ賞が決まったと聞いたとき、すぐにエジプトに行こうと決めました。彫刻を始めたきっかけの一つに、古代の遺跡や彫刻が好きだということもあり、エジプトに行きたいと以前から思っていたので、とても良い機会をいただきました。

カイロからナイル川に沿ってルクソール、エドフ、コムオンボ、アスワン、そしてエジプト最南端のアブ・シンベルまで、ほとんどエジプトを横断するような千キロ近い道のりを、遺跡や美術館を巡りながら移動しました。

カイロ近郊のギザやメンフィス、サッカラ、ダハシールでは、この目で見て



みたいと長年思っていたピラミッドをいくつか観ることができ、その内部にも入ることが出来ました。その規模の大きさをそこに存在することの不思議さに感動し立ちすくんでしまっていました。

ルクソール東岸、西岸からエドフ、コムオンボ、アスワン、アブ・シンベルと移動して行く中で、大小様々な神殿や王の墓を見学しました。石壁に隙間無く彫られたヒエログリフやレリーフ、エジプトの強い太陽の下に在っても揺るぎないフォルムで存在している彫刻やオベリスク、そして巨大な列柱群、そのときの体験を今思い出すと、巨大な石造物の迷宮の中を興奮しながら彷徨い歩いていたという感じがします。

神殿や美術館とは違うものですがアスワンで切りかけのオベリスクという、石を彫っている私には興味深い場所も見学しました。いわゆる石きり場で、42メートルものオベリスクを割り出している途中でヒビが入ってしまい放置されたもので、当時の作業跡などを



見ることができました。

最後に再びカイロにもどり、エジプトの考古学博物館を見学しました。とても観るものの多い博物館で、ここをもう一度ゆっくり観るためだけにエジプトにまた行きたいと思うほどです。

ヨーロッパの遺跡とはだいぶ趣の違うエジプトの遺跡を巡ることができ、自分の中に大きな財産が一つ増えたような気がします。作品を制作する上ですぐにそれが生かされるとは思いませんが、なにか深いところで自分の制作に必ず影響をしていくと確信することができた経験でした。

■ 授賞式 9月4日 国立新美術館3F講堂



■ オープニングセレモニー

テープカット 9月4日 10:00開場



写真左から一般社団法人二科会デザイン部理事長 今村昭秀、国立新美術館館長 青木保氏、公益社団法人二科会理事長 田中良、NHK厚生文化事業団理事長 浅谷友一郎氏、彫刻部常務理事 吉野毅、一般社団法人二科会写真部常任理事 森井禎紹

NIKA
98th
2013
event
memo

■ 懇親会 9月4日 リッツカールトンホテル



東京都知事賞 演田会員 関の声を上げる



特選受賞者



松室常務理事による乾杯

広報イベント

■ 作品講評会 9月4日

■ ギャラリートーク 9月4日



9月4日 ギャラリートーク 彫刻



9月4日 司会進行 黒川理事



9月4日 内閣総理大臣賞 西理事 自作を語る

今回のギャラリートークは、受賞者の中から、具象表現、具象形体で構成的な表現、そして抽象表現と三つのタイプを取り上げ、作者にその制作過程や作品に対する思いを語ってもらいながら進めました。

モノクロの中に巧みに人物を表現した(茶谷氏)。写実表現を追求している(高見氏)。微妙な色彩と形の構成の素晴らしい(谷口氏)。風景からの印象を堅牢な塗りと独特な色彩で表現した(矢野氏)。日常の情景を大胆な形で表現した(高木氏)。ブルーが印象的な心象風景の(古川氏)。

それぞれに確かな制作目標を持ち、今後の二科を担う作家としての頼もしさを感じました。そして、各自が次のステップに向け、それぞれの作風を追求していく事を期待しております。

ギャラリートークは、参加者が多い為、どうしても1階の作品が対象になりますが、2階、3階に若い人達の、新しい方向性を持った作品があり、若い人はそれなりに挑戦しています。その点をギャラリートークとしてもっと取り上げられたらと思います。

ギャラリートーク

黒川 彰夫

岡本太郎作品パネル特設展示室の、彫刻室へ向かって開放された会場を舞踏空間として、館形比呂氏の舞いが演じられた。吉野記念事業委員長による、開催の経緯、活動紹介など開演挨拶に続き、館形氏の舞いは太郎作品と展示彫刻の間に自在な時間と空間を表出し、演劇的、独創的な表情で観る者を引き込んだ。あまり接する機会のない舞踏の世界だが、美術館会場で鑑賞できたことで、一層に表現するもの意図とエネルギーが共鳴するイベントとなった。

二科100周年記念プレイベント TAROを踊る！

—舞踏家 館形比呂氏、二科展会場で舞う— 9月6日

「太郎美術館では、作品と遊ぶというか、作品のエネルギーに負けないようコラボすると言った気持ちで舞い、太郎も喜んでいと言われたことを嬉しく思いましたが、今回の色々な想いで制作された作品を展示した会場は、ある意味で神聖な空間というようにも感じ、また劇場とは違う刺激を受けました(談)」



TAROを踊る 9月6日 18:00～ 出演:館形比呂一

■ ギャラリートーク 9月8日



9月8日 関東会員を中心にトーク

■ 二科展鑑賞会 9月14日

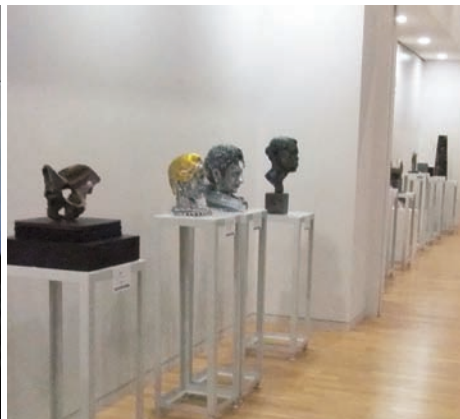
絵画部・中原常務理事 彫刻部・吉野常務理事が、1,2,3階展示室まで、二科展作品の見どころを解説、会場を総合的に案内する。



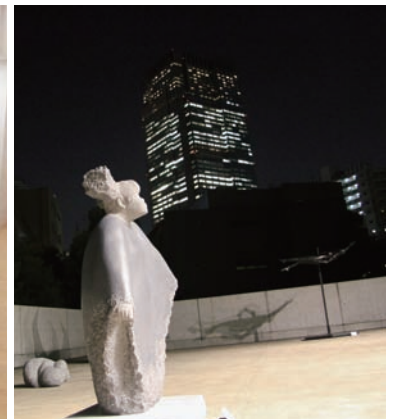
■ 金曜ナイトミュージアム 9月6日・13日



ミニコンサート 9月13日 18:00～ 出演:Aura(アウラ)



彫刻小品展示スペース



野外展示場ライトアップ

被災地児童支援・チャリティー活動報告

川内 悟

去る6月末に南相馬市教育委員会より、「南相馬市立真野小学校の廃校に伴う作品制作について支援依頼」があった。

本展審査初日(8/24)

に会員の了承を受け、9月24・25日両日、思い出となる記念画の制作指導を実施した。地元南相馬からの出品者として須田美紀子会員も参加。準備や事後処理に多大な協力をいただいた。絆通信についても、桜井

勝延南相馬市長より田中理事長宛に、「素晴らしい絵葉書等をご支援いただき、仮設住宅入居者にとりまして、二科会の皆様との絆を強く実感できたことと確信しております」「交通機関の復旧が進まない中、貴会の皆様のご厚情に心より御礼申し上げます」「抜粋」との礼状が届いた。

・廃校真野小学校の思い出・共同制作画は平成26年春季二科展会場に展示予定。

鹿島 震災の津波被害で閉校

二科会 似顔絵など描く
会員指導

東日本大震災の津波で校舎が被災し、今年度で閉校する南相馬市鹿島区の真野小で二十四・二十五の両日、二科会による絵画教室が開かれた。

同会は震災後、市・美紀子会員らが訪れた仮設住宅で絵画教室を開いた。被災者の支援活動を通じて、真野小の児童の思い出に残る絵画作品をともに作ることで、被災した児童や同会から川内常務理事をはじめ、同市出身の各校の体育館や児童が万葉太鼓を演奏する予定。

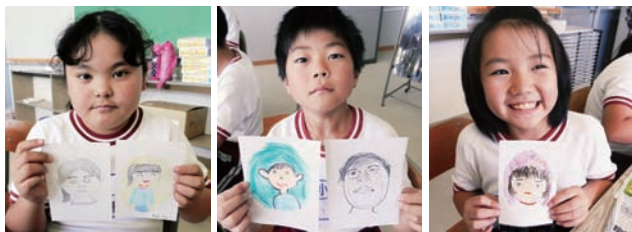
真野小の思い出絵に

似顔絵など描く

姿、校章などを描いた。また、縦三十五センチ、横約二センチの紙に、全児童のメッセージ入りの手形を貼った。

完成した作品は同校の閉校記念誌に掲載する。区内に展示する。来年四月には東京都美術館で開かれる春季二科展に特別展示され、科展に特別展示され、展示した様子などを小冊子にまとめて児童や関係者に配布する予定。

福島民報・9月27日



わー、そっくりになった!



高学年は万葉太鼓の共同制作

色紙コーナー



ショップ・4部参加のチャリティーコーナー

このように目に見えぬ形で具体的にご報告が出来、望ましい義援活動となりました。

改めて作品を提供して下さった先生方には感謝いたします。

■NHK厚生文化事業団 五十万円

■南相馬市立真野小学校 三十六万円

後者の寄付先は、六月に福島県南相馬市教育委員会より支援依頼があった相馬市立真野小学校で、廃校に伴う事業に活用されることになっております。

真野小 忘れないよ

児童が自画像、思い出描く

東日本大震災の津波被害により、本年度で南相馬市の鹿島小と統合される真野小の児童に思い出を残すべく、同校閉校記念画の制作が行われ、二科会のメンバー



仮設住民に絵はがき
南相馬 被災地支援で二科会贈る

南相馬市の仮設住宅で避難生活を送る住民らに対し、美術家団体の二科会が、24日、会員の作品をモチーフにした絵はがきセットなどを贈った。

同会は、理事の画家山中敏明さんが同市出身の縁もあって、昨年からの同市と市内の避難者に対する支援活動を行っている。今年は、大鹿(原町区)と千鳥(鹿島区)の仮設住宅に、同会が今後支援を継続する計画という。

被災支援の一環。川内常務理事のほか、同市出身の須田美紀子さんが訪れ、子どもたちと記念画を共同制作した。

25日に記念画が完成すると、子どもたちは大きな歓声をあげた。松岡保夫校長は「真野小があったことが、10年後も20年後も伝わる作品」と話していた。

記念画は来年4月に東京都で開かれる春季二科展に特別展示される。



福島民友・9月26日

チャリティー報告

チャリティーコーナーでは絵画部・彫刻部・デザイン部・写真部の四部門の先生方から提供された作品が整然と並べられ、いつも賑わいを見せていました。売上も昨年に劣ることなく、収益の総額を寄付金としました。内訳は左記の通り。

デザイン部総評

一般社団法人二科会デザイン部理事長 今村昭秀

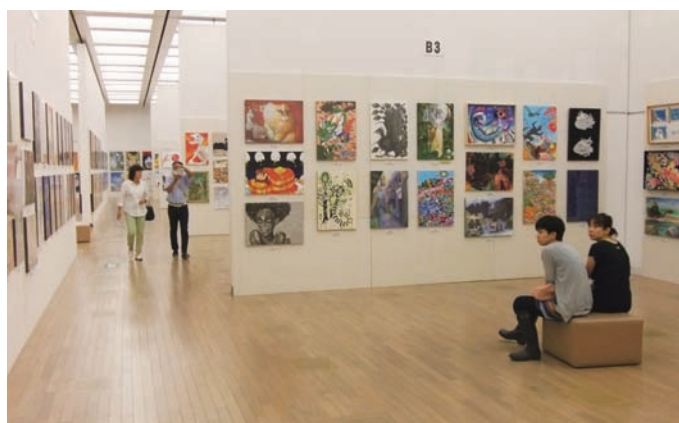
デザイン部は、昨年12月に「一般社団法人」化しました。第98回展はその第1回展となりました。4部門が参加して開催される二科展のあり方は同じです。で、特に変ったことはいのですが、やはりそこには精神的な自立感があります。この機会にデザイン部ホームページの私の挨拶の一部を引用させていただきます。

「二科会デザイン部は職能性をもった作家集団です。日常のデザイン機能主義美学とは異なる自主制作によるその表現は、ビジュアルデザインアートです。

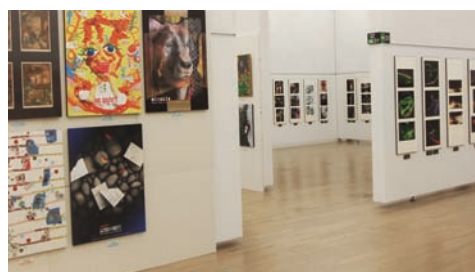


デザイン部入口

「二科会デザインアート文化の発展に寄与していきたいと思っています」としています。デザイン部が法人化したといえ、「二科」という統一ブランドをつけている以上、二科精神、理念を共有して、二科ブランドの信頼感と存在感と先進性の価値を高め、広げていかなければならない」との思いをこの第98回展で改めて、より強くしました。



デザイン部会場



デザイン部から写真部へと続く会場



写真部会場

一般社団法人二科会写真部は、昨年、創立60周年を迎えての記念展でしたが、今年の写真部第61回展は、また未来への新たな第一歩となる展覧会として開催することができました。

写真部展会場には、特別会員・会員・会友の作品及び一般公募の入賞・入選作品の総1464点を展示しました。一般公募部門は単写真応募の「一般部門」、組写真応募の「組写真部門」、学生対象の「学生部門」の3部門で作品を募集し、今回も全国から過去最多の応募点

数がありました。審査は一次審査、二次審査と延べ5日間にわたって行い、厳しい審査を通った入選・入賞作品が展示されます。

会期中は連日途絶えることなく多くの来場者があり、じつくりと時間をかけて作品一点一点を丁寧に鑑賞されていました。また、展示会場では一般公募部門の入賞作品を会員が解説するギャラリートークを行い、毎回、多数の方々が参集して好評を得ました。国立新美術館3階研修室にてフォトセミナーを開催。当日は会場に入りきれないほどの参加者があり、充実した写真講座になりました。

デジタルカメラの普及などで写真ファンは年々増加しており、今後ますます二科会写真部展への期待は高まるものと思われます。現代社会における写真の役割を十分に認識し、時代の要求に応えられるよういっそう努力する所存です。

全国写真ファンの期待に応える二科展に

一般社団法人二科会写真部事務局長 片岡順一

帝国ホテル二科サロン

帝国ホテル二科サロンは平成25年から、受賞者展として1年を4期に分けて展示しております。平成26年の98回展受賞者による出品者は先の予定です。

帝国ホテル二科サロン

第一期（1月14日～4月8日）

今泉あかね 白田聖子 添野忠高山章亮 所智恵子 吉田多鶴恵古川正 川人利行 徳弘あずさ西垣雅子 宮田春奈 村山成夫

第二期（4月8日～7月8日）

朝倉由美 宇都木裕子 大洞定治片岡素子 安本弘恵 浅利美俊子立石洋子 田中正子 三沢栄安坂伸司 吉田紗知 渡邊仁美

第三期（7月8日～10月7日）

蒲田 宏 川畑清美 木村ユリ篠原涼子 佐野宜子 高木陽鶴田英輝 上石直美 川崎美津子岸ユキ（富） 中田登 野平智広

第四期（10月7日～1月13日）

塚本和美 中村ふく子 前田友幸三宅敦子 山岡明日香 山口博司吉井愛 鈴田文明 たかぎちようこ富秋和子 三木照男 山村出洋（期間メンバーは変更になる場合があります）

春季二科展

平成26年4月17日

～23日

東京都美術館

表紙について

今号表紙は、第40回展(1965年)織田廣喜「四〇周年会員群像」。当時の会員が画面いっぱいに躍り、特徴ある表情がリアルでもある大作です。多数の登場作家名を参照していくと、50年前の所属作家の興味も広がり、二科の織田作品ならではの楽しさです。

一科茨城支部が快挙

文化庁では、全国各地域において文化振興に功績をあげた方々を、文部科学大臣表彰しています。この度、

二科茨城支部の活動が平成25年度文化地域功労者表彰、団体表彰に選出されました。

式典には茨城支部田中良支部長、斉藤孝男事務局長が出席し、表彰を受けられました。二科茨城支部の活動の成果に、お祝い申し上げます。

トピックス

母娘入選おめでとうございます。初出品、初入選の嬉しさも2倍のコメント。

絵画部・大田大生さん「初夏」と最年少入選者、大田陽さん(16)「やっぱ、地球がいい」——環境問題をテーマに意識し、植物のグリーンカーテン、窓辺の逆光の葉を表現しました。祖父は画家でした。これからも描き続けたいと思います。

彫刻部・吉本絵実莉さん(20)「SEXY@大根」デザイン部・吉本れい花さん——20年前に父が奨励賞を受賞した時には母のおなかの中で暴れていました。母娘初出品初入選、感無量です!!

事務局だより

特別警報が初めて適用された大型台風18号が日本列

島を縦断し、京都、滋賀地域はかなりの被害に遭われたようでお見舞い申し上げます。国立新美術館の会場では野外展示の作品数点を分解し、安全な状態にするなど台風対応に追われましたが、大きな被害もなく無事に八万六千八百八十八人の入場者を迎えられたことに安堵しております。

搬入点数(表2)展示点数(表3)からも分かるように絵画部の一般応募者数は僅かながらも増加傾向です。これは「U35奨励」三十五歳以下の出品者を助長育成するや、出品料半額の対象範囲を広げるなどの効果によるものと推察されます。

二科展では四部門において事務局の信頼関係を大切に、連携を強めるよう努めております。今年は二科展にダフ屋が出るという一面がありましたが、写真部の片岡事務局長と美術館の警備との連携で無事にトラ

区分	搬入点数(昨年比)
絵画・一般	2,804点 (48増)
絵画・会友	1,020点 (56減)
彫刻・一般	71点 (8減)
彫刻・会友	37点 (5減)
合計	3,932点 (21減)

表2

ブルを起こすことなく対処する事が出来ました。改めて感謝いたします。彫刻部では部内の事務を担当する独自の運営機構があります。が、今回で交代した長谷川会員お疲れ様でした。

来年は九十九回展、二科百回記念展に向けて加速が増して参ります。百年という歴史の節目の年を二科展が最高の笑顔で迎えられるよう準備して参りたいと思います。皆様ご協力宜しくお願いいたします。

事務局長 埴 珠世

表1

	入場者(昨年比)
一般当日	3,299人 (1,007減)
前売り券入場	4,484人 (760減)
高校・大学	283人 (154減)
メトロコマース	901人 (346減)
チラシ割引	587人 (13増)
チケットぴあ	105人 (37減)
団体割引	0人 (±0)
企画割引	256人 (207増)
新聞社優待券	3,830人 (1,563減)
有料入場者	13,745人 (3,647減)
無料入場者	73,143人 (12,089減)
入場者合計	86,888人 (15,736減)

表3

展示(遺作含む)	点数(昨年比)	人数(昨年比)	35才以下 出品者数(昨年比)	35才以下 応募・在籍数(昨年比)
絵画・一般	757 (22増)	731 (5増)	67名 (11増)	85名 (7増)
絵画・会友	287 (5増)	255 (12減)	8名 (1減)	9名 (0)
絵画・会員	142 (3増)	142 (3増)	0名 (0)	0名 (0)
彫刻・一般	58 (0)	57 (1減)	26名 (5減)	27名 (7減)
彫刻・会友	37 (5減)	37 (5減)	2名 (1減)	3名 (0)
彫刻・会員	58 (8減)	50 (5減)	0名 (0)	0名 (0)
展示合計	1,339 (17増)	1,272 (15減)	103名 (4増)	124名 (0)

編集後記

今期も秀作をもって、多数の受賞作品が選出され、受賞の方々は春季二科展に選抜招待出品されます。大いに新鮮な作品を期して、次春号での掲載予定であります。今号は、絵画部内閣総理大臣賞、新設の東京都知事賞、会員賞、又、会員推奨作品の掲載としています。堅実なベテラン作家と次世代の意欲作が並ぶ紙面となりました。「二科」も百回記念展に向け、その歴史を意識し、懐古的表紙を工夫してきましたが、さらなる百一回展に、どのように視点を新たにするか考えていきたいと思っています。(N)



中原史雄

編集委員会

委員長(総) 野村 みそら
委員(総) 本間 千恵子
委員(総) 深見 まさ子
委員(総) 金澤 英亮
委員(総) 宮澤 光造
委員(総) 澤 光造

平成 十五年十月三十日発行
〒160-0022 公益社団法人 二科会
東京都新宿区新宿4-13-15
電話 03-3335-5011 号室
FAX 03-3335-4768